

第 6 回仙台市震災復興メモリアル等検討委員会

《現地視察資料》

平成 26 年 3 月 24 日

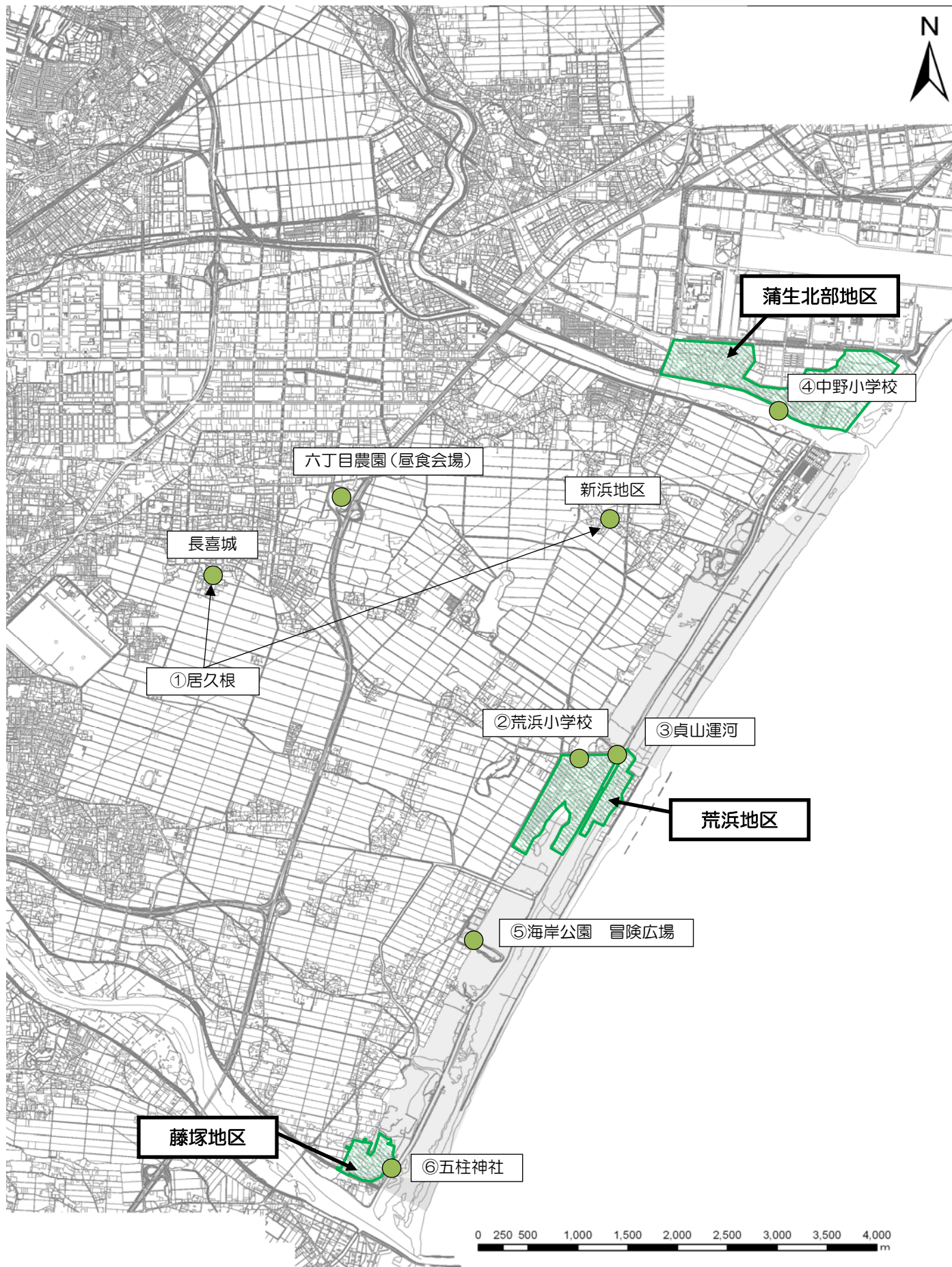
仙台市

—目次—

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 行程表..... | 1 |
| 2. 視察先 | |
| ① 居久根..... | 3 |
| ② 荒浜地区（荒浜小学校校舍及び周辺建物基礎群）...7 | 7 |
| ③ 貞山運河..... | 8 |
| ④ 蒲生北部地区（中野小学校跡地）..... | 10 |
| ⑤ 海岸公園 冒険広場..... | 11 |
| ⑥ 藤塚地区（五柱神社）..... | 13 |
| 3. 参考資料..... | 14 |

1. 行程表

| 時 間 | 行 程 | 内 容 | |
|-------|--------------|--|--|
| 10:15 | 仙台市役所 集合 | | |
| 10:30 | 仙台市役所 出発 | | |
| | ↓ | | |
| | <長喜城 経由> | • 車窓から居久根の状況を視察 | |
| | ↓ | | |
| 11:30 | 荒浜地区 到着 | • 荒浜小学校校舎及び周辺建物基礎群視察 | |
| 12:45 | 荒浜地区 出発 | | |
| | ↓ | | |
| | <新浜地区 経由> | • 車窓から居久根の状況を視察 | |
| | ↓ | | |
| 13:00 | 昼食会場 到着 | | |
| | | 「六丁目農園」 仙台市若林区六丁目字南97-3 e-環境仙台ビル1F | |
| 14:00 | 昼食会場 出発 | | |
| | ↓ | | |
| | <蒲生北部地区 経由> | • 車窓から中野小学校跡地などを視察 | |
| | ↓ | | |
| 14:45 | 海岸公園 冒険広場 到着 | • 展望台から周辺を視察 | |
| 15:15 | 海岸公園 冒険広場 出発 | | |
| | ↓ | | |
| 15:20 | 藤塚地区 到着 | • 五柱神社周辺を視察 | |
| 15:35 | 藤塚地区 出発 | | |
| | ↓ | | |
| 16:10 | 仙台市役所 到着 | | |



2. 視察先

①居久根

■概要

- ・ 仙台藩が各地で新田開発を行い、郷土集落が形成されると、知行主は屋敷にその集落の表徴になるような居久根を備えた。以後、防風、用材、燃料等の効用を持つ居久根が、水田地帯の広がりとともに、数多く見られるようになった。
- ・ 仙台平野の水田地帯に緑の浮島のように見える居久根は、先祖代々から引き継がれた農村での暮らしの知恵であり、また、農村の風土を形づくる独特の風景を形成していた。

■被災状況

- ・ 浸水した地域の居久根に関して、岡田地区、三本塚地区、井戸地区の居久根は被害率 50% 以上と被害が大きく、小在家地区、種次地区は被害率 50% 以下の被害となっている。(被害率：地区内の居久根のうち、被災した居久根の割合)

■復興方針

- ・ 東部地域の緑の復興は「ふるさとの杜再生プロジェクト」により市民植樹等を実施
- ・ 居久根に関しては再建を検討する市民に向けて、樹種や植え方等の情報提供により支援

■検討委員会での議論・主な意見

- ・ 農業のあり方と密接に結びついた居久根の再生
- ・ 農村集落の生活と居久根の杜ゾーンとの結び付き
- ・ 擬似的なものとするか、農村生活の再生まで踏み込むのか

■写真



長喜城の居久根(撮影年月不明)



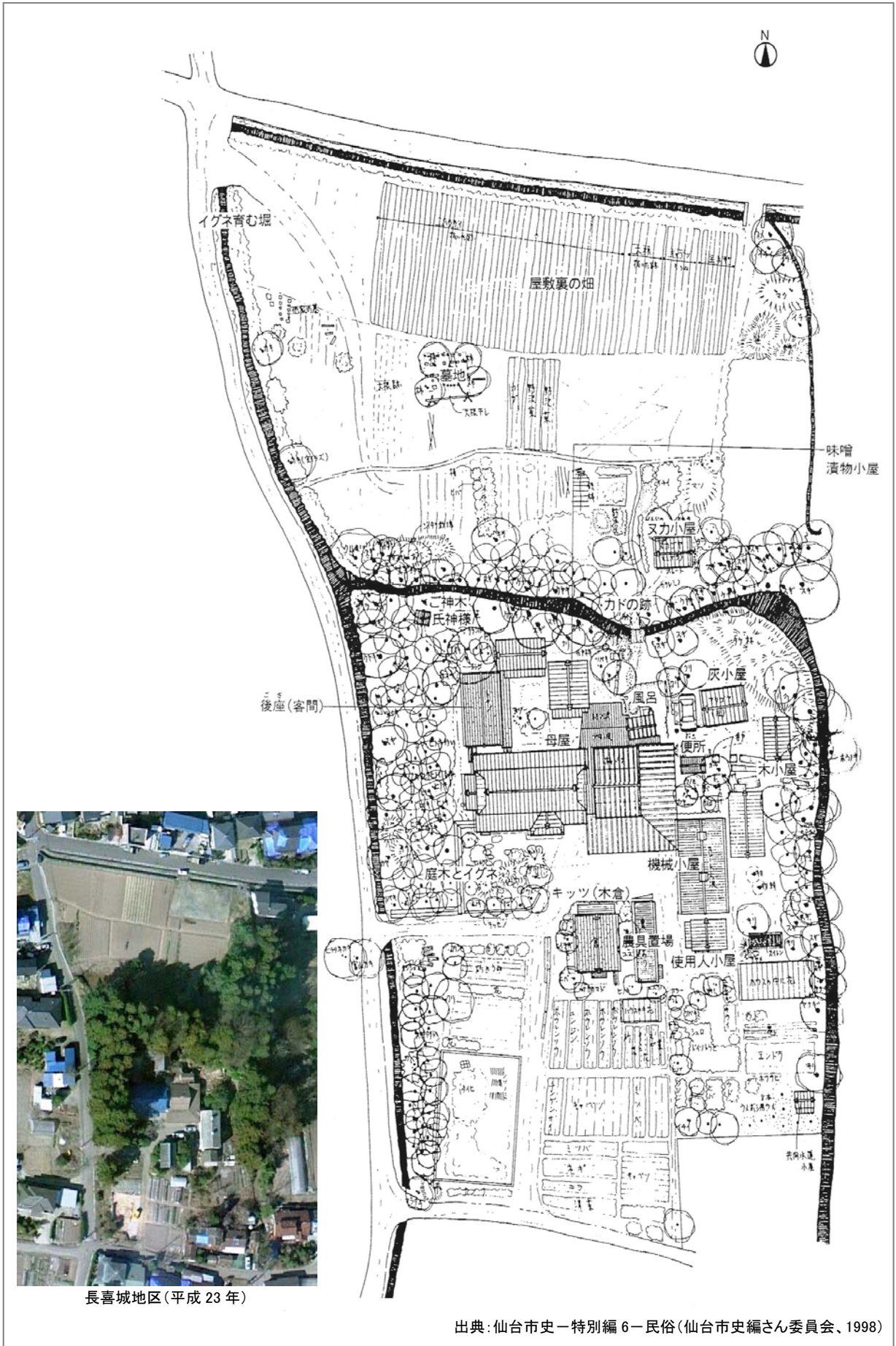
長喜城の居久根(撮影年月不明)



新浜地区の居久根(平成 23 年 6 月撮影)



新浜地区の居久根(平成 26 年 1 月撮影)








長喜城地区(平成 23 年)

出典: 仙台市史一特別編 6-民俗(仙台市史編さん委員会、1998)

被災前樹冠分布図 (荒井・長喜城地区)








| 凡 例 | |
|---|-----------------------|
|  | ~200 m ² |
|  | 200 m ² ~ |
|  | 300 m ² ~ |
|  | 500 m ² ~ |
|  | 1000 m ² ~ |

1/5000

被災前樹冠分布図 (岡田 B 地区)



| 凡 例 | |
|---|------------------------|
|  | $\sim 200 \text{ m}^2$ |
|  | 200 m^2 ~ |
|  | 300 m^2 ~ |
|  | 500 m^2 ~ |
|  | 1000 m^2 ~ |

1/5000

②荒浜地区（荒浜小学校校舎及び周辺建物基礎群）

■概要

- ・本地区は平家の落人が開墾したのが始まりと言われ、半農半漁の集落として発展した。町内にはいくつかの寺社があり、仙台市唯一の海水浴場があった。
- ・荒浜地区に代表される仙台湾特有の景観形成は、仙台城築城等の建材運搬の目的で運河を開削し、運河沿いにクロマツを植栽したことによりはじまる。沿岸部のクロマツ林は、慶長5年(1600年)の着手以降、約400年に渡り、海岸防災林としての機能に加え、沿岸部の特徴的な海浜景観を形成していた。

■被災状況

- ・津波は2階床上約40cmにまで達し、児童・教職員、避難していた地域住民合わせて300人以上が校舎に取り残されたがヘリコプターによる救出により、地震発生から約27時間後の翌日に全員が無事に校舎から救助された。
- ・想像を超える津波の破壊力は東部沿岸地域にあった集落を飲み込み、建物基礎を残し建物はほぼ全て流出してしまった。荒浜小学校周辺の建物基礎群は、リアス式海岸とは異なる平野における津波被害の恐ろしさを如実に物語る。

■復興方針

- ・本地区は災害危険区域に指定され、住宅については防災集団移転促進事業を進める
- ・荒浜小学校校舎及び周辺建物基礎群については遺構として保存を検討

■検討委員会での議論・主な意見

- ・荒浜小学校は被害の大きさを体感する場所として特別で貴重な場所
- ・荒浜小学校は300人以上が無事に助かったという点では希望の象徴

■写真



荒浜小学校(平成22年11月撮影)



荒浜集落と貞山運河(平成18年4月撮影)
提供:NPO法人20世紀アーカイブ仙台



深沼海岸入口(平成19年5月撮影)
提供:NPO法人20世紀アーカイブ仙台



荒浜集落と貞山運河(平成19年5月撮影)
提供:NPO法人20世紀アーカイブ仙台

③貞山運河

■概要

- ・貞山運河（木曳堀、新堀、御舟入堀の総称）、東名運河、北上運河は、阿武隈川から旧北上川まで、全長約49kmにわたり仙台湾沿岸を繋ぐ日本一の運河群。
- ・治水や利水といった機能に加え、歴史、環境、景観等の魅力を有する土木遺産として、カヌーなど水辺のレクリエーションの場としても利用され、多くの方々に愛されてきた。

■被災状況

- ・運河群の被災状況は、周辺の地形や海岸防災林の有無、海岸からの距離などによって様々だが、主な被災形態として、海側の堤防では表法面（運河側の斜面）で護岸や土羽が流出しており、陸側の堤防では逆に裏法面（運河背後の斜面）で被害を受けている。
- ・津波により、貞山運河沿いの住宅地が破壊され、がれきが土手沿いに散乱し、松林の風情ある景観も消滅した。

■復興方針

- ・宮城県が災害復旧事業により復旧
- ・沿川への桜の植樹を計画

■検討委員会での議論・主な意見

[全体的な視点]

- ・後世に伝えていくシンボリックな取組み
- ・スポーツレジャーに限定しない利用
- ・400年続いた暮らし、生業の痕跡をどのように残していくのが重要
- ・この地域に根付いていた住民の思いを組み入れた取組み
- ・無くなって初めて分かる思いを未来に繋げることができる取組み
- ・海や山が身近にある恵まれた地域特性を上手く取り込める仕掛け
- ・荒浜小学校の保存と連携した仕掛け

[仕組み]

- ・市民やNPOなどいろいろな人が関わられるような共助・協働のしくみ
- ・住民生活や地域の歴史が未曾有の規模で破壊されたことを伝承するしくみ
- ・市民が積極的に提案できるしくみ
- ・パブリックアートとしての仕掛けやアーティストとの連携
- ・仙台発の復興文化発信としての整備
- ・貴重な生態系の活用も重要

[具体的な提案／ハード面]

- ・憩いの場所となるような飲食店を周辺に配置して欲しい。
- ・津波が来たことが分かる目印の様なものを組み込んで後世の人達に伝えていくことができたらいい。
- ・避難施設を整備する際には、背景となる仙台平野を考慮したデザインの提案にしてほしい

[具体的な提案／ソフト面]

- ・スポーツ・レジャー、記憶の継承、美しい景観、豊かな環境という4つの項目をつなぐことができる3.11ツアーの様なものを開催
- ・運河と震災の両方を歩きながらガイドしてくれる人がいるといい
- ・利活用は完成する前から始められる、今出来ることの情報提供も必要（例えば、工事の様子を見学できる安全な場所等）

[その他]

- ・今残っている木々の保存
- ・被災した人たちがどのように感じるか不安
- ・アプローチ道路や既存市街地との接続等、周辺道路の検討が必要

■写真



貞山運河:第二旭橋から北側を望む(平成22年7月撮影)



(平成23年3月撮影)

④蒲生北部地区

■概要

- ・本地区は、ハマナスなどの海浜植物が分布し野鳥が訪れる蒲生干潟があり、蒲生干潟を一望できる日和山などがある自然豊かな場所となっていた。
- ・本地区は、住宅や業務系の土地利用が行われていた。

■被災状況

- ・七北田川左岸、仙台港南側に位置する蒲生北部地区は、東日本大震災で甚大な被害を受け、将来的にも津波の被害の危険性が高いと想定
- ・仙台市内の市街化区域で唯一津波被害があった

■復興方針

- ・本地区は災害危険区域に指定され、住宅については防災集団移転促進事業を進める
- ・基盤整備については、蒲生北部被災市街地復興土地区画整理事業により整備

■検討委員会での議論・主な意見

- ・パブリックアートとしてのモニュメントの整備
- ・全然脈絡がない変な像みたいなのをつくらないで欲しい。
- ・過去を振り返るだけでなく明日に向かうものとしてのモニュメント
- ・取り壊さなければいけなくなったら取り壊してその一部を別のシンボライズしたのやモニュメントに活用して継続的にやっていくという手は有る。

■写真



蒲生雨水ポンプ場脇(平成13年5月撮影)
提供:NPO 法人20世紀アーカイブ仙台



高砂神社(平成13年5月撮影)
提供:NPO 法人20世紀アーカイブ仙台

⑤海岸公園 冒険広場

■概要

- ・海岸公園井土地区の冒険広場は、仙台市が 2005 年に開設したエリアで、大型遊具広場・幼児遊具広場・デイキャンプ場などが整備された。
- ・現在、東日本大震災の影響で冒険広場は休園中となっている。

■被災状況

- ・海岸から約 500m の距離に位置する冒険広場にも津波が押し寄せたが、プレリーダーハウスや遊具が設置されている丘陵部は浸水を免れた。

■復興方針

- ・海岸公園災害復旧事業により再整備
- ・従来の高台を活用する避難の丘は、メモリアル空間としての位置づけを高め、震災記憶の継承を表現

■検討委員会での議論・主な意見

- ・震災で環境がどのように変わったのかを残していきたい。
- ・スポーツや観察などの企画を自主的に立ち上げる市民が増えることもメモリアルの一つ。

■写真



冒険広場:展望台より西側を望む(平成 17 年撮影)



(平成 23 年 3 月撮影)



冒険広場:展望台より東側を望む(平成 17 年撮影)



(平成 23 年 3 月撮影)



海岸公園井土地区全体完成イメージパース



海岸公園冒険広場完成イメージパース

⑥藤塚地区（五柱神社など）

■概要

- ・昔は五社明神と呼ばれた海に面した神社で、5体のご神体が筏に乗って漂着したという伝説がある。
- ・五柱とは、「大神宮」「賀茂」「祇園」「稻荷」「春日」を合祀する総神社のことで、康平3年（1060）の前九年の役に源頼義、義家親子が常陸の国村松に勧請したものを、永享7年（1435）の戦いのちに足利持氏がこの地に移したという。のちに由来を聞いた政宗が社殿を改築し、代々保護されてきた。
- ・また、境内にはご神体を乗せてきた藤蔓（ふじつる）を埋めたところ根をつけたというフジの木があり、すべてが左巻きの蔓をくぐると疫病封じになるといわれた。このフジが藤塚の地名の起こりという。

■被災状況

- ・想像を超える津波の破壊力は東部沿岸地域にあった集落を飲み込み、建物基礎を残し建物はほぼ全て流出してしまった。

■復興方針

- ・本地区は災害危険区域に指定され、住宅については防災集団移転促進事業を進める

■検討委員会での議論・主な意見

- ・パブリックアートとしてのモニュメントの整備
- ・全然脈絡がない変な像みたいなものをつくらないで欲しい。
- ・過去を振り返るだけでなく明日に向かうものとしてのモニュメント
- ・取り壊さなければいけなくなったら取り壊してその一部を別のシンボライズしたもものやモニュメントに活用して継続的にやっていくという手は有る。

■写真



五柱神社(平成 21 年 1 月撮影)

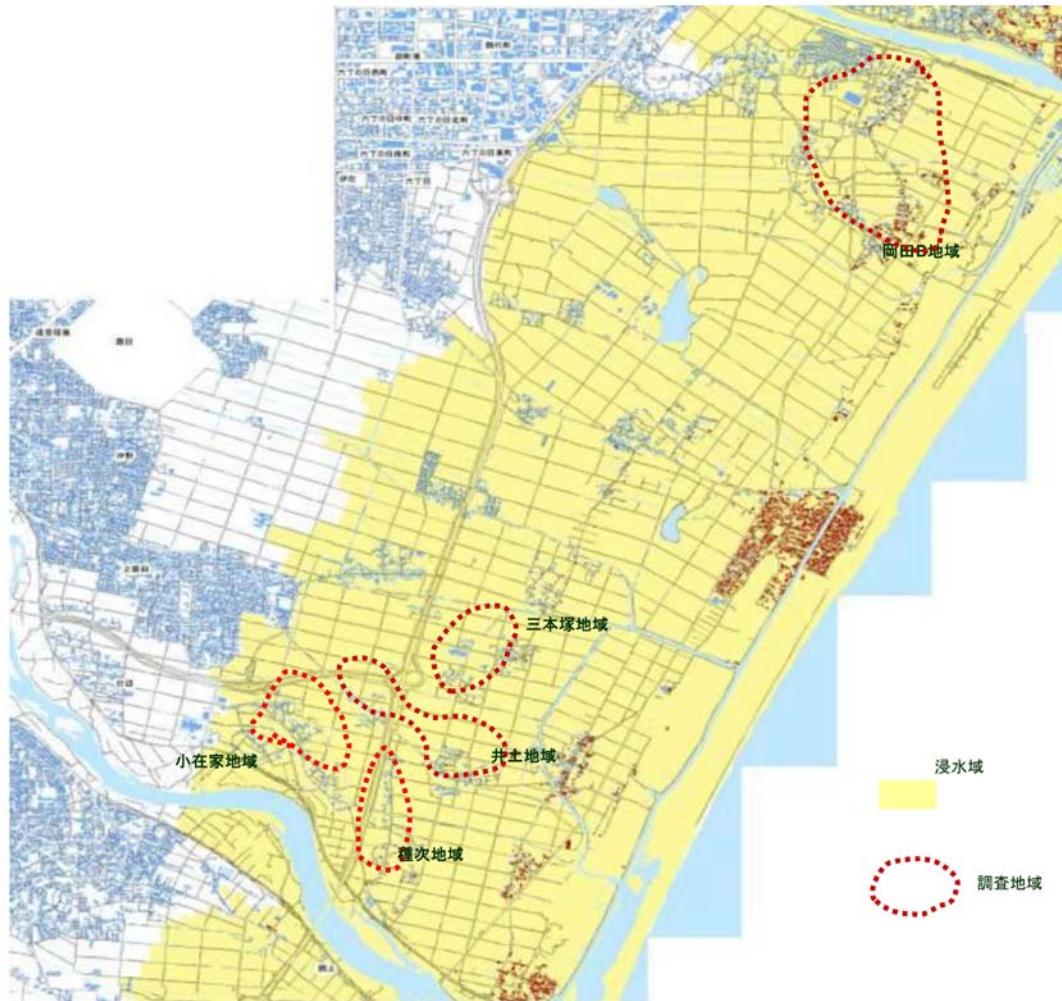


貞山運河につながる船係留場(平成 18 年 11 月撮影)

提供:NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台

3. 参考資料

■ 居久根の被災状況



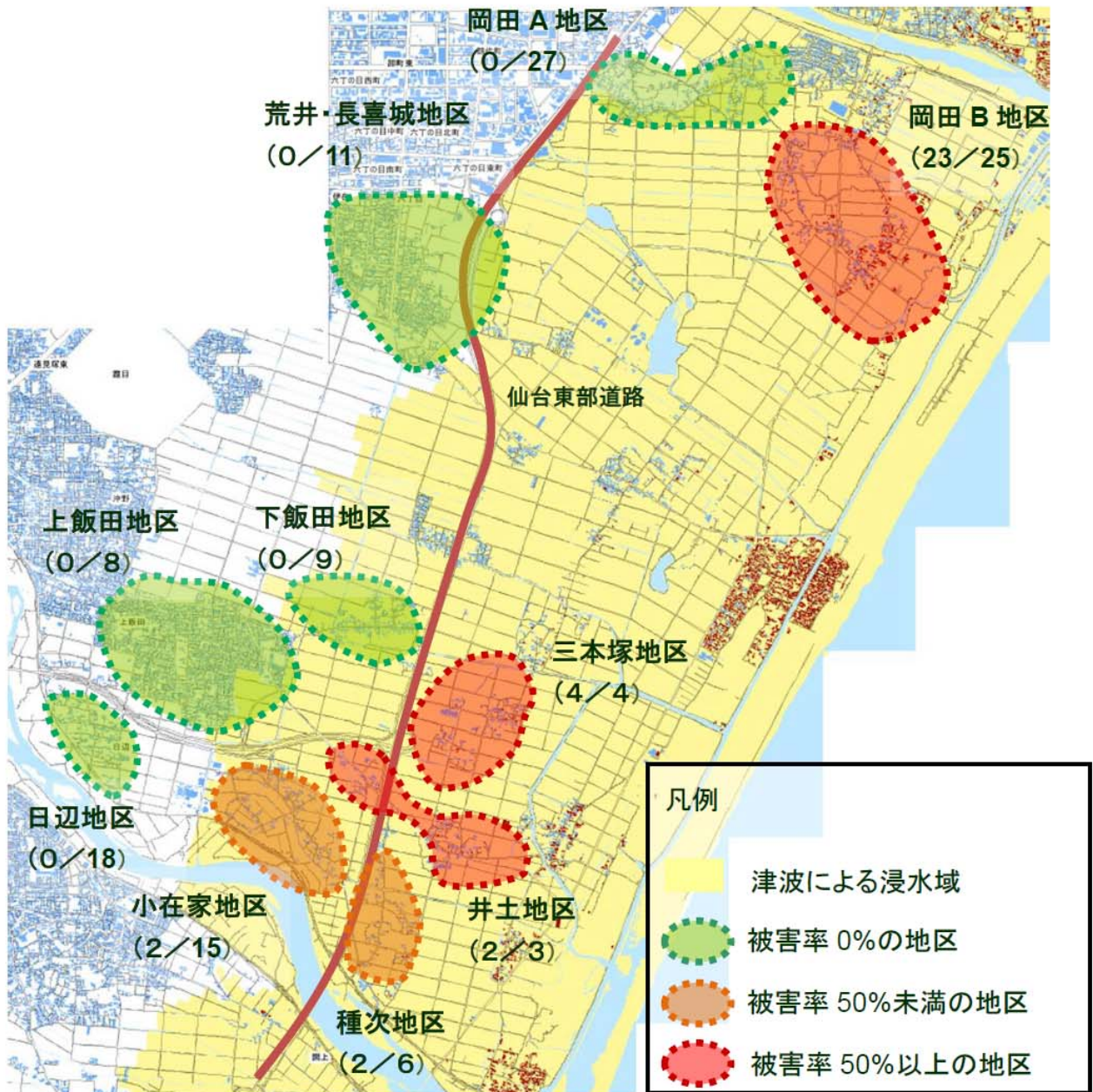
| H23 | 良好(21件) ↓ | | 一部消失(17件) ↓ | | | 消失・枯死(17件) ↓ | |
|----------------|--------------|------|----------------|-------------|-------------|-----------------|-----|
| H25 | 残存木 追加伐採 | 現状維持 | 放置・枯死木 伐採 | 残存木 追加伐採 | 残存木活用 補植 | 放置・枯死木 伐採 | 再植栽 |
| 該当件数 (全55件) | 12 | 9 | 4 | 7 | 6 | 16 | 1 |

平成23年調査時に良好 → 半数以上伐採
 " 一部または全部被害 → 8割は伐採または放置

一方で残った居久根を活用したり、苗木の植栽を行った事例もわずかながら確認

東日本大震災による居久根の被災状況

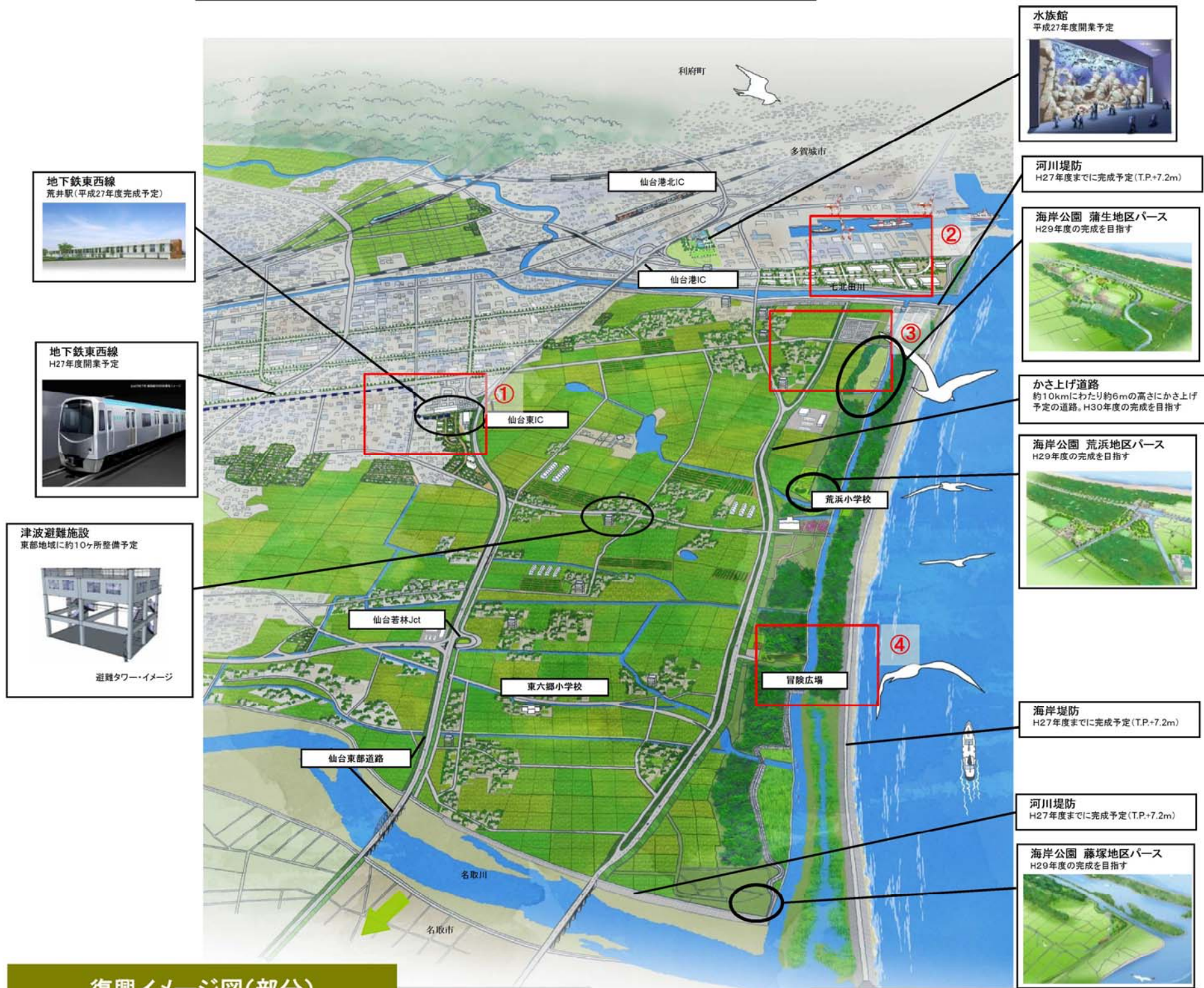
(平成 23 年 6 月調査)



(被災した居久根数/地区内の居久根数)

復興イメージ図(東部地域:将来)

東部地域仙台市震災復興計画を元に、仙台市の東部地域の復興のイメージを「将来」の時点で表したものの



復興イメージ図(部分)



イメージのため、計画に忠実ではない部分や誇張した表現の部分があります。

視察メモ

A large rectangular area with rounded corners, containing numerous horizontal dotted lines for writing notes.